

平成 24 年 6 月 27 日

南 の 風 VI

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

市の春季大会が終わりました。男子優勝は豊田チーム、女子優勝は大正チームでした。両チームの選手の皆さん、そして関係者の皆様おめでとうございます。

女子の大正チームは、将来性豊かな選手（高さも技術も）が多く、これからがたいへん楽しみです。さらに練習を重ねて、神奈川県のみニバスをリードしてほしいものです。そして、他チームは“打倒大正！！”をめざして努力することを期待します。一方男子は、優勝した豊田チームとさほど差のないチームが4～5チームいます。これからの戦いがおもしろくなりそうです。南部のチームも、ぜひ秋季大会では優勝を目標にがんばってほしいと思います。

さて高校では、インターハイ予選の決勝が各地で行われました。神奈川県は、男子では優勝の桐光学園と準優勝の厚木東が県代表を決めました。女子は優勝の金沢総合と準優勝の茅ヶ崎北陵が県代表となりました。男子の厚木東は、もちろん実力はありますがノーシードからの勝ち上がりでした。選手がゲームの流れをきちんと把握して、やるべきことをやっていた印象があります。シュートのタイミングとディフェンスの仕掛けどころがよかったですと感じました。女子では、決勝リーグの茅ヶ崎北陵対旭のゲームが手に汗握る接戦となり、ノータイムで55対54となり、旭のフリースローワンショットが決まれば延長戦という展開でした。惜しくもフリースローが外れ茅ヶ崎北陵がインターハイを決めました。素晴らしい接戦のゲームでした。＜旭高校の大内選手（元小田チーム）の活躍が光りました。＞

東京都の女子決勝も大接戦となりました。八雲学園対明星学園の対戦でした。第1ピリオドから接戦となり、明星はセンターを中心に中を攻めて得点を重ねていきます。一方八雲は明星のゾーンをパスプレーで崩し、ゾーンのギャップや裏にパスを通し得点していきました。また外角のシュートも決まっていた。第4ピリオドまで両者譲らず、残り1分をきって明星が57対56で1点リード、両チームタイムアウトを有効に使い、1点差で残り30秒を切りました。ここで八雲の4番が、トップオブザキーの位置から低い体勢でドライブインを仕掛け、見事にレイアップシュートを決めました。これが決勝ゴールとなり、八雲学園が58対57で優勝を飾りました。八雲の4番のボールに対する執着心（パスカットのタイミングやルーズボール）と、ボールミートしてからシュートまでの流れのよさが目立ったゲームでした。

なおこのゲームで元南部連盟の選手が、二人出場して頑張っていました。一人は高橋美帆選手（元ソサイティージュニア）、もう一人は曾根川幸選手（元永田台ビーバース）です。二人とも1年生ながらしっかりとプレイできていました。特に高橋選手はスタートからフルタイムの出場でした。高橋選手は4ないし5のポジション、曾根川選手は1のポジションとしてチームに貢献していました。もちろん、まだまだ課題はたくさんありますが、将来の活躍は無論のこと、直近のインターハイでも頑張してほしいと願っています。南部全体で応援したいと思います。

中学校でも、全国や関東につながる最後の市・県大会が間近に迫りました。中学3年生の皆さん、1試合、ワンプレイに悔いを残さず、全力で頑張ってください。